

教育研究業績書(和洋書式)の記入要領・記入例
 ※文部科学省の示す教育研究業績書記載要領を原案としています

教育研究業績書

押印

「研究分野」「研究内容のキーワード」については、以下の名称を参照
 【「科学研究費助成事業 審査区分表(日本学術振興会)」の小区分】
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/h30/h30_bepvyo2-4.pdf

(西暦) 2019年 5月 18日現在
 氏名 和洋 花子
 生年月日 1979年 6月 27日生 (満 39歳)

研究分野	研究内容のキーワード
○○学、××学、△△学 ※実務者は「□□に関する実務」等の記入も可。	○○、××、△△、□□ ※実務者は職務内容を簡潔に説明するキーワードの記入も可。

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日 (西 暦)	概 要
1 教育方法の実践例 (教育改善の実践例) (1)○○の実施 (2)○○の体験ワーク	2005年～現在 2010年 4月 30日	毎回授業時に、学生に○○を実施、提出させている。○○とは……であり、……の面で効果的といえる。 ○○を用いた体験ワークを実施した。××の方法論を踏まえて学生に実践させることで、△△の面で効果的にいえるよう配慮した。
2 作成した教科書、教材 (1)『1級○○管理士試験対策』 (株)○○出版	2009年 5月	○○管理士の資格取得を目指すテキスト。××という点で特徴がある。
3 教育改善に関する研究業績 (1)「××学」の2年間の教育実践状況から考える△△について	2008年 6月	○○大学紀要 第99号 p.100~110 ○○大学で担当した「××学」の1年生～2年生の受講態度についての分析をとおり、△△について研究を行った。これは、……。
4 教育上の能力に関する大学の評価 (1)東京○○大学 学生による授業評価 (2)埼玉○○大学 「優良授業賞」受賞	2011年度 2011年度後期	担当科目「○○」における大学実施の授業評価アンケート(有効回答人数100人、受講者数の98%)では、○○という評価だった。 優れた授業を行う教員に贈られる「優良授業賞」を受賞した。この賞は、……。

【教育上の能力に関する事項】

(次ページに続く)

【事項】

各区分に該当する担当予定授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入。

【年月日】 実施時期、発表時期、従事期間等

【概要】 当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入

【記載内容(例)】

【1 教育方法の実践例(教育改善の実践例)】

- 授業外における学習を促進する取組 ●マルチメディア機器の活用 ●インターネットでの講義や資料の公開 など

【2 作成した教科書、教材】

※作成した教科書や教材の概要を記入
 ※後の「著書、学術論文」と重複する場合は「(再掲)」と記載。

【3 教育改善に関する研究業績】

- 担当授業・実習等での教育効果を分析 など

【4 教育上の能力に関する大学の評価】

- 採用決定時等における評価内容 ●各大学における自己点検・評価での評価結果 ●学生による授業評価、教員による相互評価等の結果 など

前ページに引き続き【教育上の能力に関する事項】

5 特色ある学生指導 (1)「△△養護」における学生指導について	2015年～現在	〇〇の指導にあたって、××だけでなく□□を行うと同時に、☆☆のまとめをとおして学生のレポート作成能力の向上を目指している。
6 学内における教育関係の活動状況 (1)教職センター委員としての活動	2014年度～2016年度	〇〇大学教職センター委員として、中高教員免許取得を目指す学生の指導に携わった。
7 対外的教育活動 (1)市川市教育委員会主催 ××講習会	2013年9月～12月	(参加者約30名、中学生対象)××についての講習会を実施し、参加者に指導を行った。
8 大学院教育への貢献 (1)〇〇大学大学院 外国人留学生博士論文指導者	2013年9月～12月	〇〇大学大学院博士課程における外国人留学生(3名)の博士論文作成指導を行った。
9 実務の経験を有する者についての特記事項 (1)実習生指導	2013年～現在	財団法人□□指導員として、専門学校等より受け入れた実習生の指導を行っている。△△という点で特色ある指導を行っている。
10 その他		

記載内容(例)

【5 特色ある学生指導】

●ゼミでの指導方法 ●学生の産学連携への取り組み推進 ●教育内容を活用した学園祭企画の実施 など

【6 学内における教育関係の活動状況】

●学内委員としての活動 ●学科紹介のパンフレット作成 など

【7 対外的教育活動】

●自治体や外部団体等の依頼による研修指導等 ●訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修 ●大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演 など

【8 大学院教育への貢献】

●大学院での講義・指導担当経験 ●修士・博士論文指導

【9 実務の経験を有する者についての特記事項】

●担当予定授業科目に関連する、企業や団体、学校等における実務経験

例：企業内研修の講師、カウンセラーや相談員(心理学系)

●大学等から受け入れた実習生の指導 ●海外での調査研究 など

【10 その他】

●大学教育に関する団体等における活動 ●教育実績に対する表彰 ●国家試験問題の作成 ●文部科学省委託事業 など

◎ 以上、教育上の能力での活動内容や特記事項が「職務上の実績」項目と重複した実績内容を記述してもよいが、ここでは「教育」に特化した記述にすること。重複する場合は「再掲」と記載すること。

職務上の実績に関する事項		
事 項	年月日(西暦)	概 要
1 資格, 免許 (1) 1級〇〇士免許	1999年5月2日	免許登録番号第555555号
(2) 幼稚園教諭2種免許状	2000年3月	平12幼2第〇〇号
2 特許等 〈国内〉 (1) 〇〇分析装置 〈国外〉	2005年6月10日 出願	特許第555555号 (特許の内容) 〇〇分析装置は、……………である。
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 国際××機構 〇〇委員会委員	2006年～現在	〇〇委員会委員として△△等を行なっている。
4 その他		

【職務上の実績に関する事項】

〔事項〕

各区分に該当する担当予定授業科目に関連する事項を簡潔に記入。

〔年月日〕 取得時期, 発表時期, 従事期間等

〔概要〕 当該事項に係る内容の概要のほか, 当該活動における地位や役割, 成果も記入。

記載内容(例)

【1 資格、免許】

● 医師・薬剤師・獣医師・看護師・管理栄養士・教員 等

【2 特許等】

● 特許、実用新案等 ※国内、国外に分けて記入

【3 実務の経験を有する者についての特記事項】

● 大学との共同研究、訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績、各種審議会・行政委員会や各種ADR等の委員、行政機関における調査官等の官職、学会・シンポジウム・研究会・ワークショップ等での報告や症例発表、調査研究・留学・海外事情調査、大学から受け入れた教育実習生等に対する指導 等

◎ 教育上の能力に関する内容と重複して構わないが、業務上の実績に特化した記述にして下さい。

【4 その他】

● 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等、論文の引用実績 等、1～3に該当しないものを記入

※【研究業績等に関する事項】欄には、
書類の作成時において未発表のものは記入不可。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) (1)『〇〇方法論』	単著	2008年5月15日	〇〇書店 (〇〇研究叢書) A5判 200頁	1970年代〇〇の調査方法とその××について比較検討している。
(2)『〇〇研究』	共著	2009年2月20日	東京〇〇大学××研究所(A5判)	東日本における〇〇に関する統計が、企業マーケティングにおいてどのように活用されているかを××の手法で分析している。 p.100~120 (共著者：田中太郎、和洋花子)
(監修)				
(翻訳)				

【研究業績等に関する事項】

※(学術論文)、(その他)の記入は次ページで説明。

(著書、学術論文等の名称)

●研究等に関連する主要な業績を、「(著書)」、「(学術論文)」等の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入。

●当該著書、学術論文等が外国語の場合、著書等名(共著の場合は本人担当部分の章、節、題名も含む)はその外国語で記入するとともに、()書きで訳文を記入。

尚、日本語で書かれていない書類の場合、日本語版の書類作成を依頼することがあります。

(単著・共著の別)

●当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、「共著」と記入し、監修、編集、編著等も記入。単著の場合は、総ページ数、共著の場合は、執筆部分のページを記入。

(発行又は発表の年月日) ●当該著書等の発行又は発表の年月日を記入。すべて西暦で記入。

(発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称)

●著書については、発行所を記入。

●学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記。

●口頭発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記。

(概要)

●当該著書等の概要を200字程度以下で記入。共著の場合には、以下の事項も記入。

・本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページ(本人の担当部分を抽出できない場合は、これらの代わりに担当部分を抽出できない理由を記入すること)。

・本人の氏名(下線を付すこと)を含む著作者全員の氏名(多数にわたる場合は主要な共著者の氏名)(当該著書等に記載された順に記入すること)。

前ページに引き続き【研究業績等に関する事項】

(学術論文) 〈国内〉 《有審査》 (1)「×××××」(博士論文)	単著	2007年○月	〇〇大学××研究科 A5判 108頁	本研究では、……についての…視点から、……の解明を行った。
(2)「〇〇の調査に関する統計資料について」	単著	2008年5月30日	『××研究』第50巻 2号、p.22～38	〇〇の東北地方における調査の方法論について、最新の手法とそれによる統計資料のメリットとデメリットについて論じている。
(3)「〇〇と△△の文化論」	共著	2013年5月	『△△論集』第15号 p.38～46	………を分析した。 (共著者：和洋花子、山田隆)
《無審査》				
〈国外〉 《有審査》				
《無審査》				
(口頭発表《学会発表》) 〈国内〉 (1)×××における〇〇の経時的变化	共著	2015年8月20日	第10回全国××学会 △△大会(東京〇〇大学) p.50～60	………を分析した。 (共著者：和洋花子、山田隆) (共同研究のため本人担当部分抽出不可)
〈国外〉				
(招待講演)				
(その他) (1)「△△」研究座談会	—	2010年3月20日		△△の××に関する座談会を主催した。

(学術論文)

- 国際学術雑誌，学会機関誌，研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入。博士論文については、その旨を明記。尚修士論文は含まない。
- 国内・国外ともに，《有審査》《無審査》論文に分けて記入。
- 学会抄録は含まれない。国際学会で審査のある場合は，この限りではない。

(口頭発表《学会発表》)，(招待講演)，(その他)

- 報告発表，座談会，討論等の場合，当該テーマを記入。
- 総説，依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを記入。

外部資金の実績に関する事項				
研究テーマ	代表者・ 分担者の別	交付機関 共同研究機関 等	期 間 年月(西暦)	概 要 ・ 成 果 ・ 金 額
(科学研究費補助金等) (1)△△の変化の研究	代表者	科学研究費補助金 ○○研究(B) (課題番号 00000000)	2006年4月～ 2008年3月	(概要)……………について (代表者)和洋花子 (分担者)田中隆、山田博 (交付額)計 600 万円
(2)□□の及ぼす影響について	分担者	科学研究費補助金 ××研究(C) (課題番号 11111111)	2010年4月～ 2012年3月	(概要)……………について (代表者)渡辺洋一 (分担者)田中隆、和洋花子 (交付額)分担交付額 100 万円
(共同研究)				
(受託研究)				
(寄附金)				
(その他) (1)千葉県南部の○○遺跡の研究	単独	千葉県文化振興○○基金	2010年4月～ 2011年3月	(概要)……………について (交付額)計 30 万円

【外部資金の実績に関する事項】

(研究テーマ)当該研究テーマ名称等

(代表者・分担者の別)「代表者」「分担者」「単独」等

(交付機関 共同研究機関等)当該研究機関名・大学名・団体名等

(期間)実施時期等

(概要・成果・金額)共同研究の場合、本人の氏名(下線を付すこと)を含む全員の氏名(多数にわたる場合は中心となった者数名分)を記入すること。

社会貢献等の業績に関する事項

公的貢献（公的審議会・委員会等）		
公的審議会・委員会等の名称等	年月日（西暦）	概要
(1)東京都〇〇文化協会 副委員長	2014年4月1日～現在 に至る	東京都〇〇文化協会の副委員長として、… ……に携わっている。
学会等への貢献（全国的な学会のみ記入。）		
学会等の名称等	役職・地位	概要
(1)日本〇〇学会	会員	(期間)2013年4月～現在に至る
(2)日本××学会	常任理事	(期間)2015年4月～現在に至る (内容)常任理事として……を担当している。
生涯学習支援、普及・啓発等		
講座名講演名等	主催者	概要
(1)新宿区民 生涯学習アカデミー 講座「日常生活に役立つ××分析」担当	東京都新宿区	(期間)2016年4月～現在に至る (内容)本講座は…を主な対象とし、…につ いて……。
産学連携等（技術移転・相談、役員兼業等）		
貢献事例	概要	
国際貢献・国際交流		
貢献事例	概要	
その他（学内学会等は、この欄に記入）		
貢献事例	概要	
(1)東京〇〇大学××学会 会員	(期間)2013年4月～現在に至る	

【社会貢献等の業績に関する事項】

（学会等への貢献）

所属する学会の記入に加えて、学会内での理事・評議員等の役職について記入すること。